

そよかぜ No.18

3年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。昨年度の「そよかぜ」に書いたことと重なる部分もありますが、飯野高校を巣立つみなさんへ、贈る言葉。

◆◇言葉の力

「木は水を浴びて育つ、人は言葉を浴びて育つ」

「心の栄養は人によって与えられ、人によって奪われる」

新型コロナウイルスが流行し、2年が過ぎました。他者とのつながり方、世の中にあふれる言葉や行動に対して、一人ひとりが悩み、考え、乗り越えた2年間だったように思います。みんな、よく乗り越えた。苦しい時が、きっと一人ひとりにありましたよね。

世の中には、いい言葉もあれば、わるい言葉もあります。言葉の力は強く、わるい言葉が聞こえてくる場所にいると、心がしんどくなります。植物が枯れてしまうように、心が枯れてしまう。反対に、いい言葉が聞こえてくる場所にいると、前向きな気持ちになれます。がんばろうと思う気持ち、前に進む力がわいてきます。このことは、誰かが自分に向けてくれた言葉だけではなく、自分が誰かに向けた言葉にもあてはまります。自分の言葉を誰よりも近くで聞いているのは、自分です。誰かに向けた言葉は、自分に向けた言葉にもなります。

◆◇社会をつくるのは誰か

どういう社会にしたいかを考えるのも、社会をつくるのも、私たち一人ひとりです。私たち一人ひとりの意識や行動によって、社会をよくすることも、わるくすることもできます。社会で起きていること、聞こえてくることは、自分が今生きている社会の中での問題です。

みんなが言っている。みんなが思っている。みんながしている。SNSやインターネット上に書かれている。本当に「みんな」でしょうか。そこに書かれていることが「真実」なのでしょうか。私たちに見えているのは、全体から切り取られた、ほんの一部分かもしれません。その一部分を見て、全体をそういうものだと思ってしまったら、その後の行動や判断にまずいことが起きそうです。人権も、どの教科の学習も、社会をいろいろな視点からとらえるために必要です。成果がすぐに表れないものもあるでしょう。しかし、人生という長い時間をかけて見れば、すべてが皆さんにとって意味のあるものだと思います。様々なことを学習したり、様々な人と出会ってその人の思いを知ったりすることで、新たな気づきが生まれ、自分や社会を見つめ直すことにつながります。自分が社会をつくる一員だと自覚し、身の回りや社会での出来事、自分や他者を見てみましょう。

皆さん一人ひとりが、卒業後も「やさしさ」を届ける人であってくださることを祈ります。そして、差別や誹謗中傷に同調せず、反対できる人に。これから出会う人たちとの関わりの中でも、様々なこと学び続けてください。きっと皆さんなら、次の壁も乗り越えられるはず。